

佳作

火事

茨城県 水戸市立双葉台中学校二年 坂場 泰斗

八月十六日午後九時半頃 その時、僕は本を読んでいた。友達から電話がかかってきました。「泰斗、俺の家の裏の老人ホームが燃えてるんだよ。」

二階のベランダから見ると、確かにその友達の家の辺りから煙が上がっているのが分かりました。すぐに父親と一緒に自転車で老人ホームへと向かいました。そこでは、友達の家族や他の多くの人々が、老人に手をかして、誘導したり、座らせたり、水を飲ませたりと、様々な手伝いをしていました。僕も自然と手伝っていました。いす運びから、老人に水を持って行ったり、毛布を持って行ったりもしました。その途中で、一人の老人が救急隊員に救助されてきました。近くにいた人が「おばあちゃん」と言いながら、その人に向かって行きました。二人とも泣きながら、救急隊員にお礼を言っていました。その姿がとても感動的でした。

その後も、多くの人が助けられていきました。中には重症らしく、救急車で運ばれていった人もいました。僕が着く前に友達が助けた人は、「死なせてくれ」とか「俺はいいから他の人を助けてやってくれ」などと言っていたそうです。

近くにあった整形外科の待ち合い室にも老人を運びました。老人ホームにいた百人程の人全員が避難することができました。老人ホームも煙はでているものの、鎮火したので帰ろうとした時、自転車がなくなっていた事に気付きました。父の自転車はあったのですが、もう一台あるべきところに僕の自転車はありませんでした。火事だと聞いてあわてていたので、鍵を忘れかけていました。というよりも、よもや盗まれるなどは考えてもみなかったのです。周りを探しても見つからず、落胆しましたが、歩いて帰る以外に方法はありません。

せんでした。

火災にあった老人ホームに多くの人がかけつけ、それぞれが自分のできる事をして、何とか老人達を無事避難させたいと懸命に働いている一方で、心ない行動を取る人間もいるのだと思うと、非常に複雑な気持ちになりました。少し大げさな言い方かもしれませんが、人の思いやりのすばらしさと同時に、人の心の中にある醜さを見た思いがしました。僕の心は大きく揺れ動きました。

翌朝早くに鳴った電話をとると、犬の散歩にいった父からでした。

「自転車が見つかったけど、鍵がかかっているから合鍵を持ってこい。」

行つて見ると、確かに僕の自転車が思ってもみなかった場所にあります。見つかったことでほっとすると共に、僕の心の中に生じた人を憎む心も小さくなっていく気がしました。

